




事業報告書

「ジェンダーを知って 認め合い支え合う社会へ in 名護市」(出前講座)	
日時	2017/8/23 (水) 14:00~16:00
対象	関心のある方
講師	沖縄キリスト教学院大学 人文学部長 新垣 誠氏
主催	沖縄県・公益財団法人おきなわ女性財団
共催	名護市
会場	名護中央公民館 2F小ホール
定員	50名(申込:23名)
参加者数	33名(男性:9名 女性:24名)
開催目的	本講座は、受講者が日常生活におけるジェンダーに気づき、更にジェンダーの背景にある社会的構造について学び、各地域の特徴を生かした男女共同参画推進条例及び行動計画策定に向けた支援や、今まで以上に男女平等の推進を図ることを目的とし県下各市町村で開催するもの。
講演内容(概要)	<p>沖縄キリスト教学院大学で教鞭をとる新垣 誠氏を名護市に迎えてのジェンダー教室。講師はユーモアたっぷりの軽妙な語り口で講座を進め、受講者はグループ討議で自由な議論を交わすなどしながら積極的に受講していた。</p> <p>講師は、私たちは皆、幼い頃から成長に伴い「男としてこうあるべき」「女としてこうあるべき」として、実に様々なことを家庭、社会、メディアなどからすりこまれており、それは「ジェンダー規範」であることを説明。日本社会は長らく『男は仕事、女は家庭』といったジェンダー規範をベースとしての成長を遂げてきたが、男女共同参画社会が求められるようになり、このジェンダー規範が女性と男性の双方、特に最近では男性をより一層苦しめているのではないかと事例や資料が紹介された。</p> <p>男女共同参画社会は家庭、学校、社会においてさまざまな視点を持つ人たちが一緒になり「平等」というより「人権」という観点で考えながらつくりあげるべきものであること、ジェンダーフリーとは「男女が平等であること」ではなく「ジェンダーのバイアス(偏見)や差別からフリーになること」であること、そのための教育や入口としての男女混合名簿が重要であること、そうしてつくりあげられるのが“認め合い支え合う社会”であることなどがうちなーぐちを交えてアツク語られ、受講者は真剣に聞き入っていた。</p>
	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>「性差をなくす」ではなく、 性差を理由とした 「差別や偏見をなくす」</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>新垣 誠氏</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>受講風景</p> </div> </div>
参加者の声(抜粋)	<ul style="list-style-type: none"> 生活の中で、男だから、女だからとの見方、接し方はあまりしていないつもりでしたが、無意識の中にジェンダー規範がすり込まれていることに気づかされました。意識してジェンダーについて考えていきたいと思います。本当に気づきの多い講座でした。 ジェンダーについて多くの疑問がありましたが、講演を聞いてほぼ納得しました。 私の中にあるジェンダー規範、楽な方に流れる、「カマトト」ぶる、まさしくその通り。男性にとっても女性にとっても厳しい状況。教員をしていた私には、教育が実はジェンダー規範を作り出していることはショックを受けた。学びを今後深めて、ジェンダーによる偏見、差別からの自由等学びを進めたい。